

令和5年度採用

群馬県公立学校教員選考試験問題

中学校（音楽）

受験 番号	中音楽	氏 名	
----------	-----	--------	--

注 意 事 項

- 1 「開始」の指示があるまでは、問題用紙を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから6ページまであります。「開始」の指示後、すぐに確認してください。
- 3 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 4 「終了」の指示があったら、直ちに筆記具を置き、問題用紙と解答用紙の両方を机の上に置いてください。
- 5 退席の指示があるまで、その場でお待ちください。
- 6 この問題用紙は、持ち帰ってください。

※1は音楽を聴いて答える問題です。

- 1 これから聴く旋律を解答用紙に書きなさい。なお、調、拍子、小節数は以下のとおりである。


e-moll (ホ短調)、4分の4拍子、8小節

- ・調号、拍子記号は自分で書くこと。
- ・旋律は、8小節を通して、全部で4回繰り返す。
- ・曲間は、10秒とする。

2 第2学年において、「構成を工夫して、言葉によるリズムアンサンブルをつくろう～野菜を使った料理をテーマに～」という題材を設定し、3～4人のグループで創作活動を行うこととした。次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

(1) 本題材の学習につながる常時活動として、手拍子によるリズム打ちを行った。次の①、②の問いに答えなさい。

① 手拍子で同じリズムを繰り返し打ったところ、次第に速度が速くなってしまった。速度を一定に保つための手立てを書きなさい。

②  のリズムを上手に打てない生徒が複数いた。打てるようにするための手立てを書きなさい。

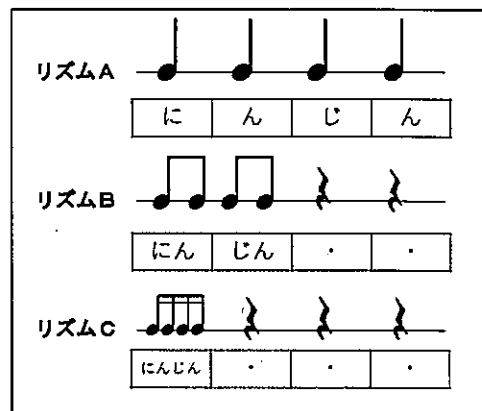
(2) 題材の導入において、生徒が学習の見通しをもてるように、ボイスアンサンブルの鑑賞を取り入れることとした。鑑賞曲を選定する際に視点となることを書きなさい。

(3) 1人1つずつ材料となる好きな野菜を選び、「リズムのもと」を3つつくるために、生徒に例として図1のリズムを示した。次の①、②の問いに答えなさい。

図1 「リズムのもと」例

① 図1のリズムを提示する意図を書きなさい。

② 「リズムのもと」を組み合わせ、4分の4拍子、2小節分のリズムをつくらせたい。生徒が「反復」と「変化」を取り入れて工夫できるよう、「リズムのもと」を生かして、例として示すための2小節分のリズムをつくりなさい。



(4) 野菜を使った料理をテーマに、グループでリズムのつながり方や重ね方を工夫して音楽をつくる活動を行った。次の①～③の問いに答えなさい。

① グループ活動を行う際、表したいイメージと音や音楽との関わりについて、生徒が意識できるようにするための教師の支援を具体的に書きなさい。

② 表したいイメージを音で表現することにつまずきが見られ、活動が停滞しているグループに対して、どのような手立てが考えられるか書きなさい。

③ 「材料をどんどん混ぜていく様子が伝わるようにしたい」という生徒の思いに対して、どのような工夫が提案できるか、具体的に書きなさい。

- 3 第2学年において、「パートの役割を理解して合唱しよう」という題材を設定し、「翼をください」を教材に「表現（歌唱）」の学習を行った。後の(1)～(4)の問いに答えなさい。

- (1) **A** **B** **C**それぞれの部分の音楽の特徴について、下の表にまとめながら、確かめる活動を行った。
 (a)～(h)に当てはまる言葉を [] から選び、記号で答えなさい。(同じ記号を複数回使用しても構わない。)

		Aの部分	Bの部分	Cの部分	
音楽の特徴	パートの役割	ソプラノ	主旋律	(b)	(e)
		アルト	主旋律	(c)	(f)
		テノール	主旋律	主旋律	(g)
	パートの重なり方		(a)	(d)	(h)

ア 主旋律	イ オブリガート	ウ フレーズ	エ ドローン
オ 伴奏	カ ハーモニーをつくる旋律		キ 斉唱 (ユニゾン)
ク 主旋律とオブリガート		ケ 主旋律とハーモニーをつくる旋律	
コ 主旋律とフレーズ		サ 主旋律とドローン	

- (2) 確かめた音楽の特徴や歌詞の内容を生かして、どのような工夫をして歌いたいかについて考える活動を行った。そのことを踏まえ、**C**の部分について、予想される生徒の考えを書きなさい。
- (3) 子音を鼻に響かせるような発音のことを何というか書きなさい。また、それをを用いることによって得られる効果について書きなさい。
- (4) **B**の部分歌唱した後、各パートの人数に偏りがない状況にも関わらず、生徒から「各パートの聴こえ方のバランスがよくない」との発言があった。この発言を受けて、考えられる状況とその改善策について具体的に書きなさい。

- 4 第3学年において、「音色や音の重なり方の特徴を捉え、ギター演奏を楽しもう」という題材を設定し、次のような【指導計画】のもと、「A表現」(2)器楽及び「B鑑賞」の学習を行った。後の(1)～(8)の問いに答えなさい。

【指導計画】

時	◆ねらい ○主な学習活動
1	<p>◆ギターの音色を知覚し、曲想と音の重なりとの関わりについて理解する。</p> <p>○(ア)「アランフェス協奏曲 第2楽章」を聴き、気付いたことや感じ取ったことを(イ)学級全体で共有する。</p> <p>○題材全体の見通しをもつ。</p>
2	<p>◆ギターの音色や響きと楽器の構造や奏法との関わりについて知るとともに、ギターの音色や奏法への関心をもつ。</p> <p>○実際に音を出して試すなどしてギターの音色への関心を持ち、ギターの音色や響きと楽器の構造との関わりについて知る。</p> <p>○C, D, Em, Gの4つのコードの押さえ方を知る。</p>
3	<p>◆ギターの奏法を生かして「カントリー ロード」を演奏しながら、音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、ギターの演奏に必要な技能を身に付ける。</p> <p>○(ウ)ストローク奏法を身に付け、4つのコードを弾きながら、「カントリー ロード」を演奏する。</p>
4	<p>◆</p> <p>(エ)</p> <p>○グループ(4～5人)に分かれてリコーダーとギターのアンサンブルをする。</p> <p>○自分の音量や音色、速度を調節できるように演奏の仕方を工夫する。</p>
5	<p>◆音色や音の重なり方の違いによる曲想の変化に関心を持ち、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <p>○ギターの音色や音の重なり方を知覚・感受しながら、「アランフェス協奏曲 第2楽章」を聴く。</p> <p>○曲想と音楽の構造との関わりを根拠に、自分なりに解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさについての考えをワークシートに書き、発表し合う。</p> <p>○題材のまとめと振り返りをする。</p>

(1) (ア)の作曲者を答えなさい。

(2) (イ)の際、生徒から「ギターとオーケストラが交互に旋律を演奏している」という発言があった。このことについて、実感を伴わせながら、他の生徒にも気付かせるための手立てを書きなさい。

(3) 器楽では、下の「カントリー ロード」の楽譜を用いて学習を行った。後の①～④の問いに答えなさい。

- ① 楽譜中のDの表す和音を五線に書きなさい。
- ② 右のような運指図を何というか書きなさい。
- ③ Emの押さえ方を解答欄の運指図に●で書き込みなさい。
- ④ この曲を教材とするよさを書きなさい。

【運指図】

1 2 3

(4) (ウ)ストローク奏法について、次の①、②の問いに答えなさい。

- ① ストローク奏法について説明しなさい。
- ② ストロークのリズムを全音符で示したところ、生徒から「簡単すぎて面白くない」という発言があった。このような生徒に対して、どのような支援や助言を行うか書きなさい。

(5) 第4時で、「思考・判断・表現」の評価を行った。このことを踏まえて、(エ)に当てはまるねらいを書きなさい。

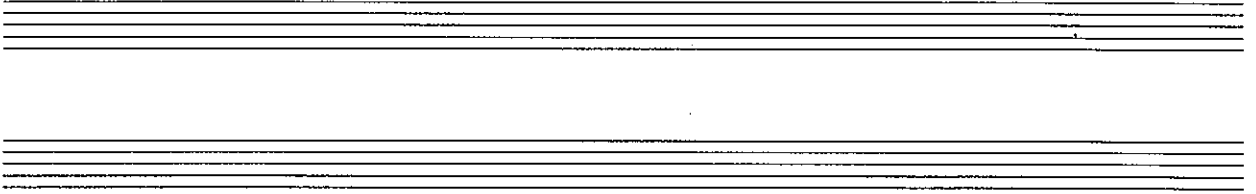
(6) 生徒たちに確実に資質・能力を身に付けさせるためには、学校での学びと家庭での学びを往還していくことが大切である。本題材において、生徒が家庭でできるICTを活用した取組を1つ挙げ、書きなさい。

(7) 本題材を実施するにあたり、実際にギターを弾きながら教材研究を行った。このことのよさを書きなさい。

(8) 本題材では、第5時に「主体的に学習に取り組む態度」の評価を位置付け、第1時から第5時までの学習活動への取組の状況について総括的に評価することとしている。生徒Aは第2時から第3時を通した器楽の学習の観察において、奏法を身に付けることに消極的で、「努力を要する」状況(C)と判断されそうな取組状況である。生徒Aに対して、どのような働きかけを行うとよいか書きなさい。

音楽	解答用紙	2枚中の1	受験番号	中音楽	氏名	(5年)
----	------	-------	------	-----	----	------

1



2

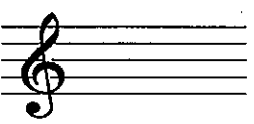
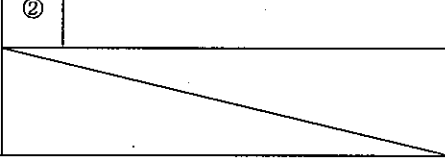
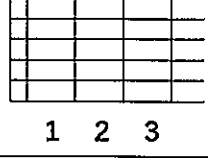
(1)	①		
	②		
(2)			
(3)	①		
	②		
(4)	①		
	②		
	③		

3

(1)	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)
(2)								
(3)	(何というか)		(効果)					
(4)	(考えられる状況)							
	(改善策)							

音楽	解答用紙	2枚中の2	受験番号	中音楽	氏名
----	------	-------	------	-----	----

(5年)

4	(1)	
	(2)	
(3)	①	
	②	
	③	
	④	
(4)	①	
	②	
(5)		
(6)		
(7)		
(8)		

以下はあくまでも解答の一例です

音楽	解答用紙	2枚中の1	受験 番号	中音楽	氏 名	
----	------	-------	----------	-----	--------	--

(5年)

1

(20点)

2	(1)	①	キーボードのメトロノーム機能を使って拍打ちの音を流しながら活動を行う。 など	(5点)	
		②	・リズムに合う言葉を当てはめ、リズムの特徴をつかませる。 ・リズムに合う言葉を当てはめ、言葉をつぶやきながらリズムを打つ。 など	(5点)	
(2)	・つくりたい作品のイメージをもつことができる曲であること。 ・言葉によるリズムアンサンブルのよさや面白さを味わい、活動の見通しがもてる曲であること。 など			(5点)	
(3)	①	同じ言葉でもリズムを変えると、感じ取るイメージも変わることを理解させるため。 など			(5点)
	②		など	(6点)	
(4)	①	・言葉のやり取りに終始することなく、実際に音楽で試す活動を取り入れるよう促す。 ・実際に演奏して、どんな感じがするか確かめるように助言する。 など			(8点)
	②	・他のグループの取組を意図的に紹介し、「なぜこのように工夫したのか」等を問い掛けることで活動の見通しをもたせる。 ・どのようなイメージにしたいのかを具体的に聴き取り、いくつかの表現方法を提案する。 など			(8点)
	③	・リズムを少しずつずらして重ねたり、同じリズムを反復させたりする。 ・「どんどん」というイメージが表せるよう、だんだんと速くする。 など			(8点)

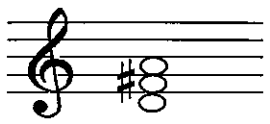
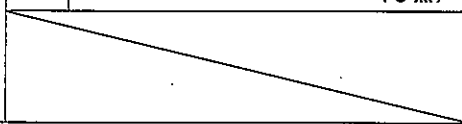

3	(1)	(a)	キ	(b)	イ	(c)	イ	(d)	ク	(e)	ア	(f)	カ	(g)	カ	(h)	ケ
---	-----	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---

(各3点×8 計24点)

(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・主旋律とハーモニーをつくる旋律とが重なり合っているので、響きをそろえて美しいハーモニーをつくれるようにしたい。 ・Cの部分の歌詞の内容は、一番伝えたいことなので、聴いている人たちによく伝わるように、言葉をそろえてはっきり歌いたい。 など 			(6点)
(3)	(何というか) 鼻濁音	(4点)	(効果)	美しくやわらかな響きで歌うことができる。(6点)
(4)	(考えられる状況) ソプラノ及びアルトパートのオブリガートが、テノールパートの主旋律よりも目立って聴こえている。 など (改善策) パートの役割に目を向けられるよう、ソプラノ及びアルトパートには主旋律をよく聴き、主旋律に優しくのせるように歌うよう指導する。 など			(5点)

以下はあくまでも解答の一例です

音楽	解答用紙	2枚中の2	受験番号	中音楽	氏名		(5年)
----	------	-------	------	-----	----	--	------

4	(1)	ロドリゴ (5点)					
	(2)	ギターが旋律を演奏するときに手を挙げるグループと、オーケストラが旋律を演奏するときに手を挙げるグループとに分け、実際に曲を聴いて確かめる。 など (8点)					
	(3)	①  (5点)	② ダイヤグラム  (5点)	③  (5点)			
	④	・生徒が知っている曲であるので、興味・関心をもって意欲的に学習に取り組むことができる。 ・4つのコードで演奏できるので、負担なく学習に取り組むことができる。 など (6点)					
	(4)	①	左手でコードを押さえ、右手で何本かの弦を同時にかき鳴らす奏法 (6点)				
		②	4分音符やシンコペーションを取り入れたリズムを提示し、チャレンジしてみるよう促す。 など (8点)				
	(5)	・ギターの音色や奏法を生かして、「カントリーロード」をどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。 ・ギターに関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい表現を創意工夫する。 など (8点)					
	(6)	・「アラنفェス協奏曲」について調べたり、作曲者について調べたりする。 ・「アラنفェス協奏曲」の他の楽章や、様々な演奏者による演奏を聴く。 ・音楽ソフトを活用してギターの練習をする。 など (6点)					
	(7)	実際に演奏してみることで、生徒たちがどこでつまずくか、どのような支援が必要か等を想定することができる。 (8点)					
	(8)	対話したり、実際の演奏を確かめたりして、うまくできていることや難しさを感じていることを把握し、うまくできていることについては積極的に認めるとともに、難しさを感じていることについては、無理なく取り組むことができるように助言をする。 など (10点)					